

第42回新潟糖尿病談話会

日 時 平成25年2月9日(土)
午後2時～午後6時
会 場 朱鷺メッセ 2階 中会議室 201

I. 一般演題

1 歯周病予防のためのセルフケア ～教育入院における集団教育と個別指導の 併用～

北村 文子・井口 佑子・各務智恵子

信楽園病院看護部

I. 研究目的

糖尿病教育入院患者が歯科定期検診を受ける意志、また、検診を受ける医療機関先を調査し、今後の課題を把握する。

II. 方法

糖尿病教育入院患者17名を対象者とする。看護師と歯科衛生士が連携し、歯科定期検診の必要性について患者へ指導する。「退院後の歯科定期検診の意志」「歯科定期検診を受ける医療機関」の情報をカルテより得る。

III. 結果、考察

対象者17名中16名、94.1%は歯科定期検診の意志を示した。歯科衛生士と連携した指導は定期検診を受ける意識づけに有効であると考え、6名は自施設での歯科受診、10名は他院での受診を希望した。他院でのセルフケア指導内容は把握しづらいため、連携していくことは重要である。

IV. 結論

1. 看護師と歯科衛生士が連携した指導で、患者の歯科定期検診の意志は高まる。
2. 退院時には患者に歯科定期検診の意志は94.1%と高い。
3. 歯周病セルフケアの意識を維持には、歯科との連携が重要である。

2 再入院2型糖尿病患者の療養生活に対する認識への一考察

～インタビューから見えたこと～

石丸 善行・矢島真由美・川上亜紗未
猪俣 敏子・五十嵐智雄*・片桐 尚*
涌井 一郎*

柏崎総合医療センター看護科
同 内科*

【目的】再入院を繰り返す有職者が、血糖コントロールが悪化する原因を明らかにする。

【方法】同意を得た患者に半構成面接にてインタビューを行い、単位化した語録をKJ法にてカテゴリ化した。

【対象】2～3回目の入院を繰り返す50歳代2型糖尿病患者3名。

【結果】糖尿病に対する患者の思いを示すカテゴリとして2つ、食事療法に関するカテゴリとして5つ計7つに分類された。治療において一番困難さを感じていたのは「食事療法」であり、食事療法自体がストレスとなっていた。「良くなりたいたい」という気持ちは皆が持っていたが、外的要因により食事療法が破られるきっかけが存在し、対応策が見つけられないままだった。

【結語】今回の対象者では、コントロール悪化の原因として特に食事療法に関する問題点が浮かび上がった。インタビューを行い、その内容をKJ法にてカテゴリ化することは原因の明確化に有用と思われる。

3 高齢者・超高齢者における耐糖能の検証(2)

四宮千加子・宮嶋 長治・星山 真理*
星山 彩子*

柏崎中央病院検査科
同 糖尿病・内分泌内科*

【方法】当院関連介護施設入所者167名(非糖尿病144名、糖尿病23名)についてHbA1cと血中C-ペプチドと血糖を測定し耐糖能を検討した。食後採血であることにより、CPI値を採用した。